

「農業簿記」取得を推進

J Aにしみの、管理職100人挑戦へ

県内初 経営の感覚高める

西美濃農業協同組合（JAにしみの）が、本年度から実施されている農業経営などに
関する検定「農業簿記」の取得に力を入れている。8月の検定には、ほぼ全ての管理職
に当たる約100人が挑戦する予定。取得を通じて、多様化する農業を経営面から捉え
る感覚を高め、きめ細かいサービスへとつなげる考えだ。

（舌間隆博）



農業簿記の取得に向け研修を受けるJAにしみのの
管理職員ら。大垣市東前町、JAにしみの本店

農業簿記は、日本ビ
ジネス技能検定協会が
主催し、全国農業協同
組合連合会などが後援
する農業に特化した新
しい簿記検定。本年度
は2、3級の検定が各
2回実施される予定
で、今年4月には第1
回検定が行われた。
JAにしみのは、8
月3日に行われる第2
回試験に向け、6月上
旬から週1回ペースで
終業後に研修会を実施
している。JA岐阜中
央会によると、同様の
取り組みは県内のJA
で初めてという。
JAは、これまでも
経理支援などを業務と
して行っている。しか
し、集落営農の法人化
や個人による法人経営
への転換など、農業を
取り巻く環境は変化し
ており、対応が必要。
JAにしみのの教育課は
「組合員らへの幅広い
支援という観点で、こ
れから力を入れていく
べき分野。管理職だけ
でなく、職員にも取得
を広げていきたい」と
している。

研修会は、税理士法
人成和（岐阜市）の協
力で実施。14日夜は、
大垣市東前町の本店で
第1回検定の試験問題

演習を行った。受験す
る総務企画部女性担当
の高木幸子次長は「自
分も農業者。農業者と
して、業務でも役立
つことなので、取得に
向け頑張りたい」と話
していた。